

**立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)**  
**個人研究費**  
**2006 年度研究成果報告書**

研究代表者	所属・職名	氏名
	文学部・教授	栗田 和明 印
研究課題	取引従事者の国際的コミュニティの研究 : 東アフリカと東南アジアを結ぶ視点から	
研究期間	2006 年度	
研究経費	480 千円	

**研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフは使用しないこと)**

本報告では東南アジアで見られるアフリカからの取引人に注目し、彼らの活動をミクロの観点から記述すると共に、取引を可能にしている背景と、取引人がコミュニティを形成する可能性について探った。具体的にはバンコクでのタンザニア人取引人に焦点をあてた。

多くのアフリカ人取引人の活動は小規模であり、従来は注目されたり、報告されたりする事は少なかった。小規模取引人に注目する研究は、現地で取引人に話を聞く事から始まる。このようなフィールドワークを基礎にした研究は、バンコクという大都会で、国際的に物資が動く場面では実施されてこなかった。また、交易活動としても、人の移動としても、アフリカ諸国=東南アジア関係には従来は注意が払われていなかった。本報告は 1) 国際的に移動する小規模の取引人に注目し、2) その移動がアフリカ=東南アジア間である、という点にオリジナリティがある。

**キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)**

[小規模取引人]

[東南アジア]

[アフリカ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

以下のことを明らかにできた。詳細は刊行の報告書を参照されたい。

## ○アフリカ人交易人の様態

アフリカからの入国者は、タイへの全入国者(1,170万人/年)の0.7パーセントしか占めていない。しかし、アフリカ人交易人が集中するマーケット、商店などは明確に指摘でき、空間的な集中が見られる。

アフリカ人交易人の活動を個別の事例から点検した。彼らの多くは衣料品を取り扱い、1週間程度のタイ滞在で数千ドルから数万ドルの衣料品を購入し、年間に4~5回の取引行をこなしている。交易人の中には宝石を扱う者、中古の電化製品を扱う者、などもいるが、彼らの数は少なく、その行動パターンも衣料品関係の交易人とは異なっている。

本研究で対象にしている交易人は、自己資金で活動し、従事者も本人と家族あるいは近い親族程度のものを指している。自己資金で1回に数万ドルを超える規模の買い付けをする交易人は見られない。また、アフリカから東南アジアに航空機で旅をして、製品を輸送して利益を得るためには、1回について数千ドル以上の規模が必要であることも確認できた。

具体的な事例に則して調査をすすめたので、交易人が実際に利益を出すための種々の条件が明らかになった。買い付けの規模、航空運賃、海上輸送の代金、関税、タイ=アフリカ諸国の価格差などである。これらの数値について、定量的な調査をおこなうことは、本研究の目的ではない。しかし、取引の実体を示すために、実際の料金を挙げての点検は必須であり、報告書でもそれらを示して実情を示すべく努めた。

とくにタイ=アフリカでの3倍程度の価格差は取引を成立させる重要な条件である。従来の報告者の調査[栗田 2004]や三島[2002]の報告などから、この程度の価格差は特別に大きなものではなく、一般に観察できることも確認した。

## ○交易人の位置

タイからタンザニアへの衣料品の輸出は650万ドル/年である。これは年間に数十万ドル(1回に4万ドル程度の買い付けをする交易人が年に4~5回訪問する)の交易人が数十人、あるいは年に数万ドル(1回に数千ドル×年間数回訪問の交易人)が数百人で担うことができる量である。タンザニアからの全入国者数は2,194人/年であり、いわゆる小規模交易人が、タイ→タンザニアの衣料品輸出のほとんどを取り扱っていることが分かった。

## ○原資の獲得

アフリカと東南アジアを結ぶ、いわば国際的な取引に従事するためには、ある程度原資が必要である。数千ドルの原資を得ることは、アフリカ内、あるいはタンザニア内で取引などに従事して可能であるか、を従来の報告者の調査[栗田 2004]を引用しながら点検した。いくつかの実例について点検し、原資の獲得は国内、あるいは国境をはさんだ近距離の取引を続ければ、可能であることが分かった。

## 研究成果の概要 (つづき)

## ○ コミュニティの形成

交易人のコミュニティを考察する場合、i) 交易人が短期間しか買い出し先に滞在しないこと、ii) 長期間滞在する商店主になるアフリカ人は少ない事、iii) 移動した人びとの連絡を保証する通信手段はあること、iv) 空間的にも頻繁に移動をしていること、は前提となる特徴である。このような特徴をもつ交易人がコミュニティを形成していくかどうかを点検した。

交易人として短期間タイを訪れる人びとの拠り所となっている、アフリカ人が中心になる卸・小売りの商店がある。マリ、ナイジェリア、カメルーン出身者のもので、これらの商店を中心にアフリカ人交易人のコミュニティが形成される可能性がある。しかし、これらの店は、報告者の推定では数十軒と僅少である。さらにアフリカ人中心の店舗は中国に中心が移っているとも情報も得ている。

一方で交易人がアフリカでの販売店や顧客と築いている紐帯は強く、タイとの通信手段も現在では十分に確保されている。タイやその他の東南アジア諸国を移動する交易人と、アフリカ各地を結ぶ、いわば空間に限定されないコミュニティも想定の可能性はある。

交易人のコミュニティ形成については、タイのバンコクにある店を中心にしたコミュニティ、中国でのコミュニティ、移動する交易人を中心にした空間に限定されないコミュニティを広く視野に入れてさらに検討する必要がある。

## ——引用文献——

栗田 和明 2004「ソングウェ川をはさんだ交易——国境付近での商活動——」豊田由貴夫(編)『生活世界から捉えるグローバル/ローカル化の動態に関する地域間比較研究』66-79ページ。立教大学。

三島 禎子 2002「ソニンケにとってのディアスポラ——アジアへの移動と経済活動の実態——」『国立民族学博物館研究報告』27(1): 121-157

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

①雑誌論文

2006 「アフリカ大陸出身者の移動と国境を越えるコミュニティー—アジアとのつながりを探る—」『平和・コミュニティ研究』2号 60-72 ページ。唯学書房

②図書

2007 刊行予定 「タンザニア人交易人のタイでの活動—実例の分析から—」佐久間孝正 (編)『移動するアジア—経済・文化・ジェンダー—』ページ数未定 明石書店

③シンポジウム

2007 「東南アジアとアフリカを結ぶ交易活動と人のネットワーク形成」立教大学 平和・コミュニティ研究機構 ワークショップ 『東アジアにおけるコミュニティと平和の構築』2007年3月10日 於：立教大学

2007 予定 (仮題) Tanzanian informal traders in Thailand: Actual individual behavior and community. In International Symposium on the Human Migration And Acculturation in the Pacific Rim 2007年7月13~16日 於：立教大学

④研究報告書

2006 「アフリカにおける人の移動と国境を越えるコミュニティ」林倬史 (編) 立教大学 SFR 指定領域 2005 年度研究成果報告書『アジアにおける平和構築のためのトランスナショナル・コミュニティの形成』27-30 ページ 2006年3月

2007 「東南アジアとアフリカを結ぶ交易活動と人のネットワーク形成」林倬文 (編) SFR 指定領域 2006 年度研究成果報告書『アジアにおける平和構築のためのトランスナショナル・コミュニティの形成』113-131 ページ。立教大学 平和・コミュニティ研究機構。

2007 年刊行予定 「アフリカ人交易人の東南アジアでの活動—南=南交易従事者の移動とコミュニティ形成—」立教大学 人の移動と文化変容研究センター (編) 『(仮題) 環太平洋地域における人の移動と文化変容研究』